



江刺視覚がい害者福祉協会
佐藤 健 会長

声の広報を利用して8年になります。テープのダビングは、本協会が担当し、それぞれ明確に役割分担ができてるのが特徴です。

また、アイメイトの皆さんは、本協会の準会員として共に活動しており、常に近い関係でいてくれるのは、とてもありがたいと思います。声の広報を聞くと、誰が読んでいるのか全て分かります。

江刺では、30年という長い間、継続している声の広報。とても頼りにしています。これからも、私たちに温かな声で、さまざまな情報をつないでほしいと願っています。

昭和57年の国際障害者年に、当時の江刺市長から「広報江刺の朗読を」との話が持ち上がりました。そのとき、社会福祉協議会主催の、視覚に障がいのある人に向けた朗読研修を受講した人たちに声が掛かりました。私もその中の一人です。

私たちアイメイトは、聞いていただく人を楽しんでもらえるよう、BGMを使用。また、季節を感じるができるような言葉を付け加えて録音しています。

スタッフ確保も課題ですが、即時に双方向でやり取りできる方法も模索していきたい。そして、これからも“血の通った声”を届けたいと思っています。



えさし声の広報「アイメイト」
門脇 生男 会長



事前に入念な読み合わせを行う（胆沢区・ゆきつばきの会）

声の広報では、市広報や市議会だより、福祉だよりなど、市民生活に関わる情報を、CDやカセットテープに録音し、視覚に障がいのある人にお届けしています。現在、それぞれの団体は区ごとに活動。市社会福祉協議会や総合支所健康福祉課が記録媒体の発送と回収を行い、団体に対しての支援をしています。活動内容は若干の違いがありますが、いずれの団体も、心を込めた声による情報をお届けしています。

この声の広報は、利用を希望する場合、申し込みが必要となります。親戚や近隣などで視覚に障がいのある人がいるときは、積極的に申し込みたいだけという、皆さんからも周知をお願いします。市が発信する情報などは、日常生活を送る上で、誰もが必要としています。そして、声の広報は、視覚に障がいのある人の生活に潤いを与えてくれます。



「はなことばの会」（水沢区）では、記録媒体にCDを使用。クリアな音質で“声”をお届けしています

市内では「声の広報」を提供する5つの団体が、区ごとに活動しています。声の広報では、視覚に障がいのある人に対し、市広報をはじめ、さまざまな情報を愛情込めた声で伝えています。今回、その各団体の活動を市民の皆さんに紹介し、利用者の拡大を促進します。

私たちが声を届けます

■「声の広報」団体の概要

	水沢区	江刺区	前沢区	胆沢区	衣川区
名 称	水沢区音声訳ボランティア「はなことばの会」	えさし声の広報「アイメイト」	前沢声の広報「声なかまの会」	声の広報「ゆきつばきの会」	衣川録音ボランティア「たんぽぽの会」
代表者	佐藤 光子	門脇 生男	佐々木 昭子	千葉 光吉	南洞 やす子
会員数	30 人	9 人	11 人	10 人	14 人
活動開始年	平成 2 年	昭和 57 年	平成 7 年	平成 8 年	平成 12 年
活動場所	市総合福祉センター	江刺総合コミュニティセンター	前沢健康管理総合センター	胆沢総合福祉センター	衣川保健福祉センター
利用者数	44 人	31 人	7 人	16 人	8 人
記録媒体	CD	カセットテープ			
送付・回収方法	点字用郵便、盲人用郵便、手渡し				
問い合わせ	市社会福祉協議会 水沢支所（☎ 6025）	市社会福祉協議会 江刺支所（☎ 8081）	前沢総合支所健康福祉課（内線 274）	市社会福祉協議会 胆沢支所（☎ 3111）	市社会福祉協議会 衣川支所（☎ 3144）

※CDを再生する場合は、専用の再生機器（ポータブルレコーダー）が必要となります



広報おうしゅう「羅針盤」コーナーは、市長の生声を録音しています（水沢区・江刺区）



楽しみながら発声練習。笑顔がこぼれます（前沢区・声なかまの会）



手渡しでのお届けも行っています（衣川区・たんぽぽの会）



読み手の声質に合わせてミキシングしながら録音（江刺区・アイメイト）

ポータブルレコーダー 購入補助

市は、視覚障害2級以上の人がポータブルレコーダー（CDに音声データを書き込みしたり、再生したりする機器）を購入する場合に補助を行っています。

購入を考えている場合は、事前にご相談ください。

◆基準単価 録音再生機（8万5千円）、再生専用機（3万5千円）

◆補助率 所得に応じて9割～10割

◆問い合わせ 本庁福祉課障がい福祉係（226・227）、各総合支所健康福祉課

